

## 認定社会福祉士制度への期待

富士宮市地域包括支援センター  
センター長 土屋幸己

### 1. 資格取得のきっかけ

組織の限界を感じ、何度かの転職。

社会福祉学部卒業であるが、受験資格なしのため通信教育で受験資格取得。

制度創設から10年を向かえる頃、40歳になるまでに何とか資格取得を・・・。

### 2. 資格取得後の意識の変化（資格取得は社会福祉士としてのスタートライン）

倫理綱領に裏打ちされた活動実践。

権利擁護の担い手としての自覚。

県社会福祉士会活動への積極的参画。

各研修へ積極的に参加

- ・全国統一研修（六領域）
- ・成年後見制人養成研修。（権利擁護）
- ・地域包括支援センター関係研修。（地域包括ケア）
- ・高齢者虐待対応研修（権利擁護）

### 3. ソーシャルワーカーとしての仕事の醍醐味

ジェネラリスト・ソーシャルワークを基礎理論とした地域を基盤としたソーシャルワーク実践を目指す。

地域包括ケアの中核拠点となる地域包括支援センターにおける総合相談支援の担い手。

### 4. 認定制度の持つ意味と期待

資格取得後に自らの実践と理論のすり合わせ。

自らの実践の根拠を明確にするための体系的な研修。

複雑化していく社会問題に対応できるスキルの取得。

組織や地域に対するマネジメントやソーシャルアクションのスキルの取得。